

多摩キャンパスバーチャルツアー

日時 2020年5月29日(金)
15:30~17:10

場所 Web 会議ツール「Zoom」上

概要

1. 参加者数：17名
2. 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 先輩や同学年との交流のきっかけづくり
 - 新入生の大学生活への不安を取り除く



3. 内容：

5月29日(金)、課外教養プログラム「多摩キャンパスバーチャルツアー」を実施しました。課外教養プログラムとしては初のオンライン上で開催したプログラムとなりました。

本プログラムは新型コロナウイルスの影響で大学への登校開始の見込みが立たなくなった中、オンライン上のみという想定外の大学生活や友人ができない環境に対して不安を抱える新入生の気持ちを和らげることを目的に実施しました。プログラムの進行には Google ストリートビューを使用し、まるで現実の多摩キャンパスを一緒に歩いているかのようにして進められました。また、多摩キャンパスの魅力を最大限感じられるよう、ツアー中の随所で学生スタッフ考案のクイズや施設内部の写真・四季の写真を使った紹介も行われました。

新入生からの感想として以下のようなものが挙げられました。

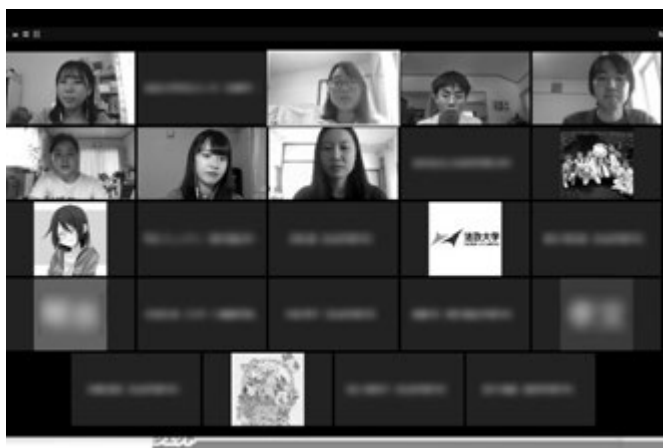
「バスの利用など日常生活のことを伝えてくれたので、キャンパスに行くのがさらに楽しみになりました。」

「先輩方の説明はわかりやすく、質問も丁寧に答えてくださりました。」

「普通に通っていたら気がつかないままだったかもしれない、知らなかった情報まで得ることができました。」

このような社会状況であっても、今回のプログラムをきっかけに新入生がより積極的に前向きに今後の大学生活を臨んでくれるようになれば幸いです。

プログラムの様子



あなたの身近な植物図鑑

日時 2020年7月29日(水)
15:00~16:30

場所 Web 会議ツール「Zoom」上

概要

1. 参加者数：29名
2. 講師：稲垣栄洋氏
(静岡大学農学部教授)
3. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
- 遠くに出かけることができない現在の社会状況下だからこそ、身近な植物への関心を高め、様々な学びのきっかけにする。

4. 内容：

2020年7月29日(水)に課外教養プログラム「あなたの身近な植物図鑑」を実施いたしました。本プログラムは普段は何気なく通りすぎてしまう“雑草”に焦点を当て、その名前や特性を学ぶとともに、あまり遠くへ出かけられない状況下においても身近な草花で日常を楽しむきっかけを作ることを目的としたものです。

講師として、静岡大学農学部教授稲垣栄洋先生をお招きしました。先生は雑草生態学を専門とし、農業研究に携わる傍ら、著書を通じて普段はあまり注目されることのない雑草の知られざる生態を明らかにするとともに、身近な雑草から垣間見ることのできる「生き方」や「生存戦略」などといった独自のテーマから人が生きる上でのヒントを発信されています。

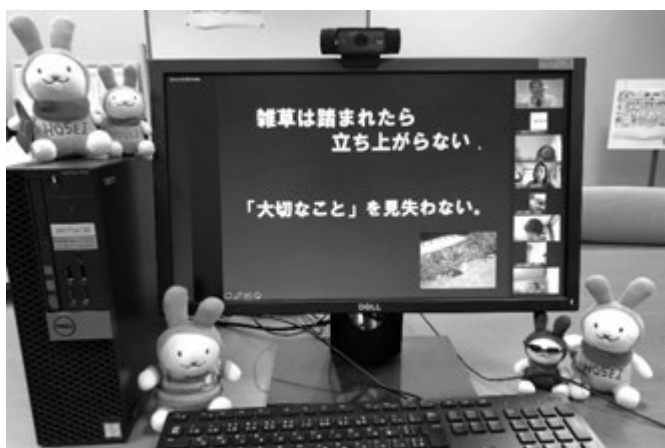
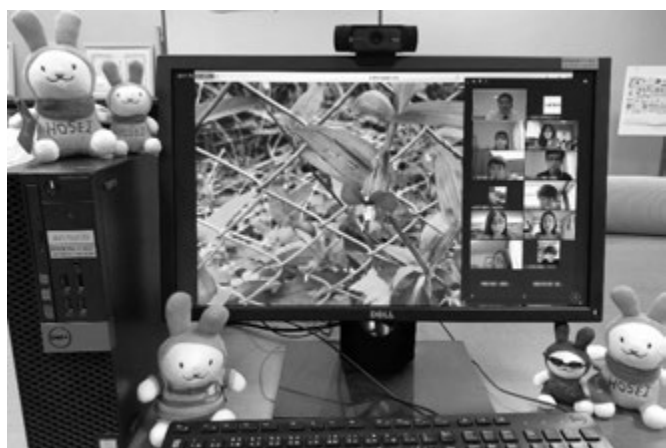
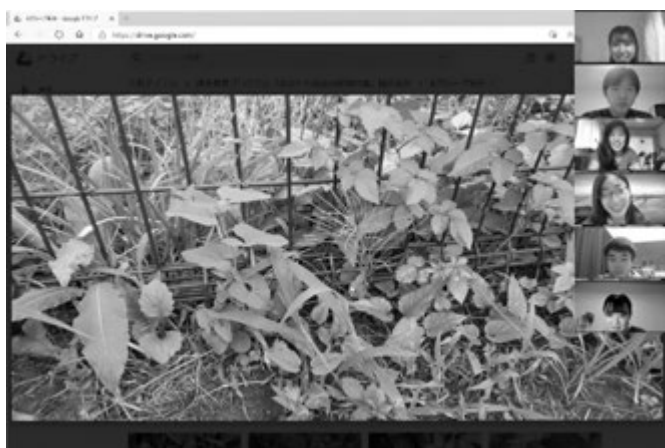
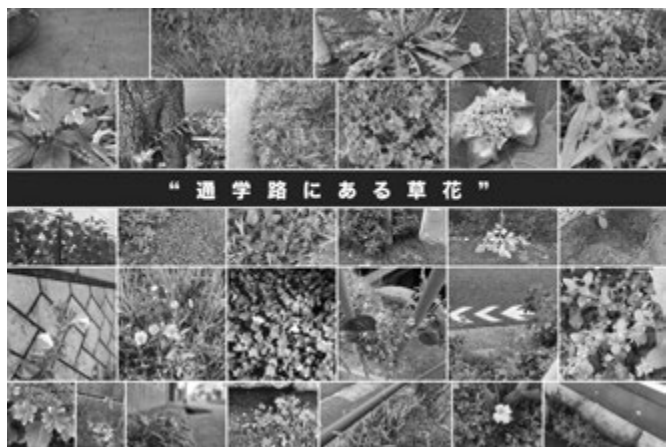
プログラムでは、まず Zoom の「ブレイクアウトルーム」機能を活用し、参加者に事前に用意してもらった「通学路にある草花」の写真をもとにその草花の印象や生えていそうな場所などをグループごとに話し合うワークを行いました。その後ワークで用いた参加者一人一人の写真について先生から解説をいただきました。名前と反して可愛い花が咲く「オニタビラコ」は「たびらこ」より大きいことから名付けられたといった名前の由来から、日本の在来種である「クズ」は海外では外来種として「グリーンモンスター」という名前で恐れられているといった特性まで、身近な草花の様々なストーリーや生き方を教えていただきました。プログラムの最後には雑草の生き方から私たちの人生にも活かすことのできるお話がありました。「自分の強みを見つけ、小さなチャレンジを繰り返す」「『大切なこと』を見失わない」という雑草の生き方は、参加学生にとって今のコロナ禍の時代を生き抜くためのヒントとなりました。

講義が分かりやすく、参加者全員の写真にコメントしていただいたこともあり、質問コーナーでは先生への質問が絶えないなど、オンラインでも積極的に参加することのできるプログラムとなりました。本プログラムをきっかけに、あまり遠くへ出かけることができない今だからこそ、身近な植物に目を向け様々な学びを見つけてもらえるとうれしいです。



【報告・KYOPRO スタッフ】風間琉音(社会学部社会政策科学科3年)

プログラムの様子



大学生からのコミュニケーション

日時 2020年9月4日(金)
15:00~16:30

場所 Web 会議ツール「Zoom」上

概要

1. 参加者数：17名
2. 講師：鈴木まり子氏
(法政大学兼任講師)

3. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
- 学習面や課外活動面など様々な場面で大学生活をより有意義にするコミュニケーションスキルを身に付ける。

4. 内容：

2020年9月4日(金)に課外教養プログラム「大学生からのコミュニケーション」を実施いたしました。本プログラムでは、新型コロナウイルスの影響によるオンライン上のみという想定外の学生生活やそれによる人間関係作りに十分に適応できていない学生を対象に、その不安を取り除き、オンラインでの交流や今後の学生生活をより有意義にするためのコミュニケーションスキルについて学ぶことを目的に実施しました。

講師として本学兼任講師であり、人間環境学部、キャリアデザイン学部で「ファシリテーション論」の授業を担当されている鈴木まり子先生をお招きしました。先生は地域、NPO、行政、学校、医療介護、企業など様々な分野でファシリテーションを伝える研修を全国で実施していらっしゃいます。

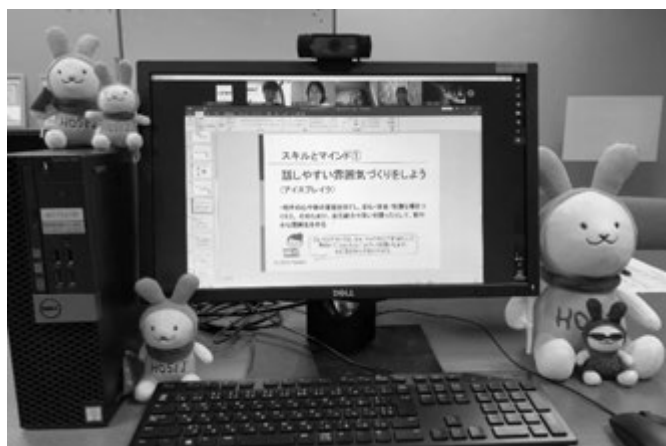
プログラムではまず初めに、鈴木先生から「コミュニケーションとは」「コミュニケーションのスキルとマインド」についての講義をしていただきました。傾聴や質問するといった対面でのコミュニケーションで意識して行うと良いものに加えて、対面のとき以上に自分から積極的に声をかけていくといったオンラインならではのコツについても教えていただきました。講義の後は実践も兼ねてグループワークが行われました。各グループ約4人に分かれ、学生スタッフ1名を進行役、参加者を1名が話し役、他2名が傾聴役としてローテーションしながら交流を図りました。初対面同士にも関わらず、楽しそうに話している場面が見受けられ、参加者の多くがコロナ禍で人との繋がりを持てていなかった中、非常に良い機会を設けられました。

オンライン上での開催となったことで、キャンパス・学部・学科・学年問わず多くの学生に参加していただきました。参加学生が本プログラムをきっかけとし、コミュニケーションに積極的に取り組み、今後の学生生活をより有意義なものとしていただけましたら幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】澤藤来美（経済学部現代ビジネス学科2年）



プログラムの様子



三曲体験教室－日本文化を学ぼうシリーズ－

日時 2020年10月6日(火) 17:00～19:20

場所 市ヶ谷キャンパス 富士見坂校舎6階 和室

概要

1. 参加者数：5名(対面) 2名(ZOOM)
2. 協力：法政大学三曲会
3. 実施目的：
 - 学生サークルによる「ピアサポート」の実践
 - 日本文化の体験
4. 内容：

10月6日(火)、学生センター・学生生活応援プロジェクト
「－日本文化を学ぼうシリーズ－三曲体験教室」を実施しました。



本企画は、三曲(三味線・箏・尺八)鑑賞と、体験を通じた伝統芸能に関する教養教育と新型コロナウイルスの影響で停滞してしまったサークル活動を再び盛り上げる事を目的として実施しました。

プログラムでは、本学の登録団体である三曲会が講師となり、三曲の歴史や楽器について学びました。また、学んだうえで実際に三曲会の皆さんによる演奏を聴きました。参加者はなかなか聴く事の無い三曲の演奏に、参加学生は感動している様子でした。当日は、新型コロナウイルス感染対策でオンラインでも実施を行いました。体験は出来ない物の三曲会の演奏に聞き入っている様子が印象的でした。

その後は、三味線、箏、尺八の3グループに分かれて、楽器の演奏を体験しました。三曲会の皆さんが参加学生について体験のサポートにあたり、お互いに楽しそうに楽器を演奏していました。使用した楽器はアルコール消毒を行ったり、使用する前は手指を消毒する等感染対策を徹底して行いました。

参加学生からは、「三曲会の楽器に関する説明や演奏もとても面白かった」「もっと演奏したい」など、多くの感想をいただきました。なかには、プログラム終了後も三曲会の学生と話している参加学生もあり、本プログラムは学生同士の交流の場ともなりました。

プログラムの様子



小金井バーチャルキャンパスツアー

日時 2020年10月17日(土)
13:00~15:00

場所 Zoomによるオンライン開催

概要

1. 参加者数：10名
2. 講師：KYOPRO 小金井学生スタッフ
3. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
- 新入生に対して、大学生活のイメージを掴んでもらい、登校開始後、スムーズに大学生活を始められるようにする。

4. 内容：

2020年10月17日(土)に課外教養プログラム「小金井バーチャルキャンパスツアー」を実施しました。

本プログラムは、新型コロナウイルスの影響で学生の登校開始の見込みが立たない中、オンライン上のみという想定外の大学生活や友人ができない環境に対して不安な気持ちを抱えている新入生を対象に、大学生活のイメージを掴んでもらい、登校開始後スムーズに大学生活を始められるようにすることを目的に実施しました。

プログラムはキャンパス内をライブ中継する形式で行い、ライブ中継で説明しきれなかった内容はスライドと動画を使って補足しました。ツアー中は、随所で参加者からの質問を受け付け、終始良い雰囲気で行進することができました。

参加者からの感想として以下のものが挙げられました。

「ライブ中継という形で実際に小金井キャンパスを回ることができて楽しかったです。」

「質問が気軽に、いつでもできたのが良かったです。プログラムの流れの説明があったのもわかりやすかったです。」

「普段は行かない場所も回ることができて楽しかったです。」

このような社会状況ではありますが、今回オンライン上で開催することで新入生と交流する機会を作ることができました。今後、新入生が大学生活を送る上で本プログラムが少しでも役に立てば幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】長岡隼巳（理工学部応用情報工学科2年）



プログラムの様子



管理棟2階 窓口の正面写真



質問タイム
何か質問がある方は
チャットかボイスで受け付けます



1階 図書館の中にある
ラーニング commons の写真



東館食堂と食べ物の写真



【学生生活応援プロジェクト】 With コロナ,With 笑い HOS オンラインお笑いライブ

日時 2020年10月23日(金) 18:30~19:10

場所 ZOOMでの生配信

概要

1. 参加者数：5名(ZOOM)
2. 協力：法政大学お笑いサークルHOS
3. 実施目的：
 - 学生サークルによる「ピアサポート」の実践
 - 課外活動がなかなか出来ないサークルへの支援
4. 内容：

10月23日(金)、学生センター・学生生活応援プロジェクト「With コロナ,With 笑い HOS オンラインお笑いライブ」を実施しました。



本企画は新型コロナウイルスの影響で停滞してしまったサークル活動を再び盛り上げる事を目的として実施しました。

プログラムでは、法政大学で唯一お笑いを扱っているサークルである法政大学お笑いサークルHOSにご協力いただき、企画を行いました。所属している学生が複数組のコンビを組んだり、ピンでネタを披露し合いました。当日は、新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で対面での実施は出来ませんでした。ZOOMを用いて、新入生や在学生に向けて発信を行いました。

今回の企画は、新型コロナウイルスの影響で新歓活動が出来ないサークルの支援という意味合いもあり、新入生へ向けて自団体の活動をアピール出来る良い機会にもなったのではないのでしょうか。

企画内では、非常にクオリティの高いネタが多く披露され、会場内・オンライン会場は笑いに包まれていました。

参加学生からは、「新型コロナウイルスの影響で、なかなか活動が出来ない中このような活動が出来てよかった」、「久しぶりにサークルの仲間と活動が出来てよかった」や「新入生へのアピールになった」などの感想がありました。

プログラムの様子



ジャズを楽しもう～With Corona,With Music～ 第1弾 ジャズ演奏のフォーマットを知る

日時 2020年10月28日(水) 18:00～20:00

場所 市ヶ谷キャンパス 富士見ゲート校舎 B2 階 オレンジホール

概要

- 参加者数：8名(対面) 22名(ZOOM)
- 協力：坂上学 氏(法政大学経営学部教授)
トオイダイスケ 氏
- 実施目的：
 - 学生サークルによる「ピアサポート」の実践
 - 聴く機会が少ないジャズについて、解説する事で音楽の教養を身につけてもらう。
- 内容：

10月28日(水)、学生センター・学生生活応援プロジェクト
「ジャズを楽しもう～With Corona,With Music～」を実施しました。



本企画は、聴く機会が少ないジャズについて実際に聴いて頂き、また、ジャズについてレクチャーを受ける事で音楽に関する教養を身につけてもらう事と新型コロナウイルスの影響で停滞してしまったサークル活動を再び盛り上げる事を目的として実施しました。

プログラムでは、本学経営学部教授でジャズについて造詣の深い、坂上学先生と本学OBでプロのジャズミュージシャンとして活躍されているトオイダイスケ氏にジャズの基本について実演を交えながら解説して頂きました。講演の中では、「ジャズアーティストはなぜ即興で演奏が出来るのか?」、「代表的なジャズの進行方法」等について解説して頂きました。当日は、ニューオレンチスイングオーケストラ、Ⅱ部モダンジャズ研究会といった本学でジャズを演奏しているサークルにも会場設営や実演のサポート等でご協力頂きました。参加した学生の殆どはジャズ未経験の学生で、聴きなれない音楽用語の理解に苦戦しながらも、メモを取りながら、講師の話に真剣に耳を傾けていました。また、講演の終盤では、講演の内容を学んだうえで、実際に楽器が演奏できる学生と講師の方々とのジャムセッションを行いました。

また、今回の企画は新型コロナウイルスによって家からなかなか外に出る事の出来ない学生も参加が出来るようにZOOMを使ったオンラインも併用するハイブリッド形式で実施しました。

参加学生からは、「今回の企画を受けて、自分も楽器をやってみたくなった」、「プロのジャズアーティストとセッションを行って、大変勉強になった」など、多くの感想をいただきました。なかには、プログラム終了後にジャズ系音楽団体の学生と話している参加学生もあり、本プログラムは学生同士の交流の場ともなりました。

プログラムの様子



【学生生活応援プロジェクト】

ジャズを楽しもう～With Corona, With Music～第2弾 ジャズ演奏のリズムパターンを知る

日時 2020年11月10日(火) 18:00～20:00

場所 市ヶ谷キャンパス 富士見ゲート校舎 B2 階 オレンジホール

概要

- 参加者数：5名(対面) 2名(ZOOM)
- 協力：坂上学 氏(法政大学経営学部教授)
伊地知大輔 氏
- 実施目的：
 - 学生サークルによる「ピアサポート」の実践
 - 聴く機会が少ないジャズについて、解説する事で音楽の教養を身につけてもらう。

4. 内容：

11月10日(火)、学生センター・学生生活応援プロジェクト

「ジャズを楽しもう～With Corona, With Music～ 第二弾 ジャズ演奏のリズムパターンを知る」を実施しました。

本企画は、聴く機会が少ないジャズについて実際に聴いて頂き、また、ジャズについてレクチャーを受ける事で音楽に関する教養を身につけてもらう事と新型コロナウイルスの影響で停滞してしまったサークル活動を再び盛り上げる事を目的として実施しました。

プログラムでは、本学経営学部教授でジャズについて造詣の深い、坂上学先生と本学OBでプロのジャズミュージシャンとして活躍されている伊地知大輔氏にジャズのリズムパターンについて実演を交えながら解説して頂きました。講演の中では、「ジャズ演奏にはどのようなリズムパターンがあるのか」、「ジャズのリズムパターンが実際の曲の中ではどのように使われているのか」等について解説して頂きました。ジャズ演奏の複雑なリズムを楽譜を見ながら、一つ一つ分解して説明を受けた事により、ジャズで好まれるリズムパターンやそうでないものの違いがよく分かりました。また、当日は、ニューオレンヂスイングオーケストラ、II部モダンジャズ研究会やジャズ研究会といった本学でジャズを演奏しているサークルにも会場設営や実演のサポート等でご協力頂きました。

参加した学生の殆どはジャズ未経験の学生で、聴きなれない音楽用語やリズムパターンの種類の多さに苦戦しながらも、講師の話に真剣に耳を傾けている様子が印象的でした。

講演の終盤では、講演の内容を学んだうえで、実際に楽器が演奏できる学生と講師の方々とジャムセッションを行いました。

また、質疑応答の時間では、ジャズ系音楽団体に入部した新入生から「どのような練習をすれば良いか？」という質問がありました。その質問に対して、講師の方から直接練習方法のレクチャーを受ける事が出来、新入生にとっては貴重な機会になりました。

参加学生からは、「複雑だと思っていたジャズのリズムパターンを詳しく知る事が出来てよかった」、「ジャズにつ



いて全く知らなかったが、今回の企画で興味を持った。」など、多くの感想をいただきました。なかには、プログラム終了後にジャズ系音楽団体に所属している新入生同士で話している学生もあり、本プログラムは学生同士の交流の場ともなりました。

プログラムの様子



オンラインでは教えられないキャリアの裏側

日時 2020年11月16日(月)
13:00~14:40

場所 大内山校舎4階 Y406

概要

1. 参加者数：11名
2. 講師：佐野 哲 氏（法政大学経営学部教授）
3. 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 参加者が目先の不安にとらわれず、新卒採用にとどまらない冷静で長期的なキャリア観を持って就職活動に取り組み、今後の自身の将来を見直すきっかけになることを期待する。

4. 内 容：

11月16日(月)、課外教養プログラム「オンラインでは教えられないキャリアの裏側」を実施しました。このプログラムは新型コロナウイルスで世の中が大きく変化する中で、これからの就職活動やキャリアはどのように変化するか。過去や現在のキャリアの話や踏まえ、労働問題や就職活動事情に詳しい本学経営学部長の佐野哲先生に講義していただきました。

また、このプログラムは大学の教室で行われました。今年は多くの授業がオンラインになり、学生はキャンパスに足を運ぶ機会が減りました。その中でも対面授業ならではの雰囲気、学生と講師のコミュニケーションを体感してもらおうと、対人距離の確保や体温チェックなど感染症対策をとった上で実施しました。

当プログラムは最初に用意したレジュメにそって大卒の就職活動や、企業のキャリアの仕組みを広く講義していただきました。企業はなぜ採用活動をするのか、就職先でどのような働き方やキャリアアップが行われているかなど、当事者からなかなか聞けない事情を教えてくださいました。

プログラムの中盤、参加学生に質問事項や感想を書いてもらい、それに答えていく方式をとりました。コロナ禍での就職活動の影響や海外での就職事情、さらにはキャリア選択の軸といった様々な質問があがり、参加学生はメモをとるなど興味深く話を聞いていました。

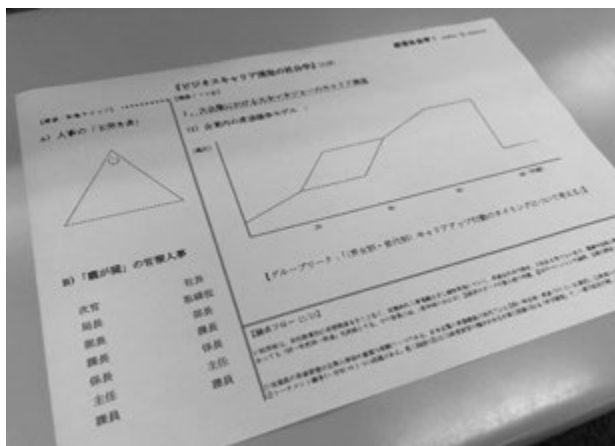
コロナ禍で学生生活はすっかり変わり、多くの学生が将来について不安に感じています。

しかし、当プログラムをきっかけに、目先の不安にとらわれず、冷静で長期的なキャリア観をもち、将来について考えていただければ幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】中山大輔（経営学部市場経営学科3年）



プログラムの様子



先人は凄かった！総長と学ぶ江戸ロジ

日時 2020年11月17日(火)
16:50~18:40

場所 富士見坂校舎1階F101 遠隔講義室

概要

1. 参加者数：15名
2. 講師：田中 優子 氏（法政大学総長）
3. 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 先人たちの知恵や工夫にも優れたものが存在することを実感し、日々の生活で活用してもらう。

4. 内容：

11月17日(火)、課外教養プログラム「先人は凄かった！総長と学ぶ江戸ロジ」を実施しました。



このプログラムは現代の環境問題について、江戸時代の環境へ取り組みから解決策を考える企画です。講師の田中優子総長に江戸時代の人の取り組みを紹介していただきました。

また、このプログラムは大学の教室で行われました。今年は多くの授業がオンラインになり、学生はキャンパスに足を運ぶ機会が減りました。その中でも対面授業ならではの雰囲気を感じてもらうために、検温や手指の消毒はもちろん、ビニール手袋やフェイスシールドを使ってカルタ形式のワークも実施し、対面でできない企画になりました。

当プログラムは、はじめに、江戸時代にはどのように循環されていたのか、人々のものを大切にする価値観について講義していただきました。着物の洗いはぎの話や行灯の話を通して、江戸時代の人々を取り巻く環境・社会についての理解が深まりました。

プログラムの中盤、学生スタッフが現代の環境問題についての取り組みや課題について紹介し、それに対する詳しい解説を総長にお話していただきました。江戸時代と比較しながら現代の環境問題への取り組みを理解することができました。

プログラムの終盤では、ディスカッション形式で講義の内容を踏まえて現代の環境問題への対策を議論し発表しました。どのグループもユニークなアイデアを出しており、学んだことを生かしていました。それに対して総長から丁寧なコメントをいただき、各々の意見について深く考えることができました。

コロナ禍で学生生活も変わり、多くの学生が先の分からない不安に苛まれています。

その中でも自分たちの生活をより良くしたいという向上心のもと、環境問題にも目を向け、自分のできることから取り組んでいただければ幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】吉村秀斗（法学部政治学科2年）

プログラムの様子



【学生生活応援プロジェクト】 茶道体験教室

日時 2020年11月20日(金) 15:00~17:00

場所 市ヶ谷キャンパス 外濠校舎5階 和室

概要

1. 参加者数：対面3名、オンライン4名
2. 協力：法政大学茶道研究会 6名
3. 実施目的：
 - 学生生活応援プロジェクトの一環
 - 日本文化の体験

4. 内容：

11月20日(金)、学生センター・課外教養プログラム「茶道体験教室」を実施しました。本企画は、学生応援プロジェクトとして実施しました。オンライン参加者へはZOOMを使って中継し、質問を受けたりしました。



プログラムは、本学の登録団体である茶道研究会協力のもと行われました。

まずは、対面参加者に椅子に座って、お茶を飲んでいただきました。

座ってのお茶会体験はとても珍しく、参加者からは、道具や作法の質問がありました。オンライン参加者からも質問があり、質疑応答も全員参加で行うことができました。

「道具で高いものはいくらですか?」「座ったお茶会の道具の特徴は何ですか?」「なぜ茶碗を回すのか?」といった参加者の様々な質問に、茶道研究会が丁寧に答えてくれました。

ZOOMでのオンライン参加は、35分で終了しました。

その後、対面参加者の皆さんには、畳に座って、お菓子を食べていただき、お茶をたてる体験を一人ずつ、行いました。

置いたままの茶碗に、抹茶を入れる作法はできましたが、お湯を入れる作法には、全員苦戦していました。茶筌の持ち方や泡立てる作法を体験し、たくさん泡立てるほど苦味が少なくなることなど、コツを教えていただきました。また、飲み方の作法を教えていただき、飲み終わった後に茶碗を回すのは、下げてくださる方へ、茶碗の正面を向けるため、茶道の日本的な心遣いを知ることができたようです。茶碗をみるときは、太ももに腕をつけて、茶碗をながめる作法など、道具を大切にするための作法であることは体験しないとわからないし、心遣いゆえの作法であると知ることができたようです。

座学として、法政大学茶道研究会は裏千家であるが、他の流派の作法や、お道具の話、掛け軸やお花まで、季節を意識して、もてなす心が茶道にあることを体験教室を通して学ぶことができました。

今は、秋なので、秋の掛け軸、花、茶碗でおもてなしを受けましたが、道具の質問から、夏のガラスに金魚の茶碗や、スイカの柄の茶碗を紹介して下さり、今風に感じられる珍しい茶碗は、昔からあるそうで、季節を楽しむ茶道のことを茶碗の柄から実感できました。

ZOOMの中継まで、茶道研究会さんが担当して下さり、コロナ禍でも茶道体験教室を実施できました。ありがとうございました。

【参加学生による感想】

作法や道具について、具体的に聞いたことや、自分でお茶をたてるのも楽しかった。(CD3年)

プログラムの様子



今こそ知ろう！オリンピック ～スポーツが築く国際平和～

日時 2020年11月24日（火）
15:30～17:10

場所 Web 会議ツール「Zoom」上

概要

1. 参加者数：8名
2. 講師：舛本直文氏
(オリンピックの伝道師(自称))

3. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
- 国際社会・異文化への理解を深め、多様性を尊重する現代社会に順応する契機とする

4. 内容：

2020年11月24日（火）に課外教養プログラム「今こそ知ろう！オリンピック～スポーツが築く国際平和～」を実施いたしました。本プログラムは、コロナ禍で開催意義が問われるオリンピックについて国際平和の観点から捉え、その存在がこれまでに、そしてこれから果たす役割を学ぶことを目的として開催されました。

当プログラムでは講師として自称「オリンピックの伝道師」である舛本直文先生をお招きしました。先生の専門はオリンピック教育・研究、スポーツ哲学であり、複数回のオリンピック大会の現地視察をされています。また学校団体や市区町村に向けたオリンピック・パラリンピック関連の講演を多数なされています。

プログラム当日は、学生スタッフから参加者へ、来年度におけるオリンピック開催についてどう考えているかを選択式で問うことから始まりました。「簡素化して開催」、「次回大会以降に実施」など様々な意見が挙がりました。その後語り手は先生へと移り、競泳の池江璃花子選手のメッセージ動画を皮切りとして講義が始まりました。教育・平和思想である「オリンピック」や聖火リレーに込められた平和のメッセージ、国際協調を推進し相互理解を深めるべく開催期間中に提供される「文化プログラム」の解説など、50分という短い時間でオリンピックが持つ平和の象徴的側面を語っていただきました。

講義後にはポストコロナ時代のオリンピックの在り方についてグループで話し合うワークを行いました。「オリンピックを通じた文化交流に焦点を当て、人々の交流をさらに深めるイベントに」「コロナ禍で不安要素がありながら無観客開催というのはオリンピックの『国際平和』という意義に反するのでは」などといった意見が挙がり、開催が一年延期になった今だからこそその価値を考える貴重な時間になりました。

今回のプログラムを通じて国際社会・異文化への理解を深め、多様性を尊重する現代社会に順応する契機となっていたら幸いです。



【報告・KYOPRO スタッフ】嶺岸樹（経済学部経済学科3年）

プログラムの様子



【学生生活応援プロジェクト】 能楽体験教室—日本文化を学ぼうシリーズ—

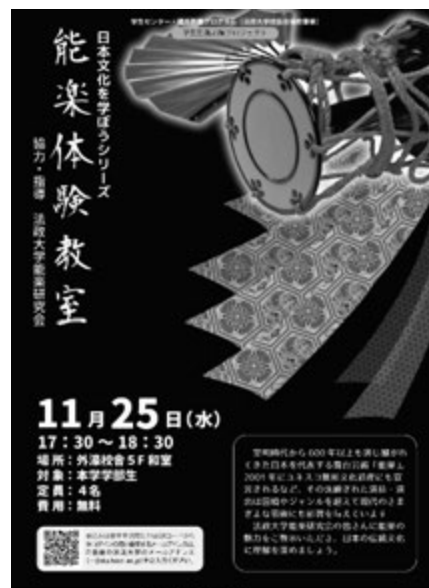
日時 2020年11月25日(水) 17:30~18:30

場所 市ヶ谷キャンパス 外濠校舎5階 和室

概要

1. 参加者数：3名(対面) 3名(ZOOM)
2. 協力：法政大学能楽研究会
3. 実施目的：
 - 学生サークルによる「ピアサポート」の実践
 - 日本文化の体験
4. 内容：

11月25日(水)、学生センター・学生生活応援プロジェクト「—日本文化を学ぼうシリーズ—能楽体験教室」を実施しました。



本企画は、能楽鑑賞と、体験を通じた伝統芸能に関する教養教育と新型コロナウイルスの影響で停滞してしまったサークル活動を再び盛り上げる事を目的として実施しました。

プログラムでは、本学の登録団体である能楽研究会が講師となり、能楽の歴史や文化について学びました。また、学んだうえで実際に能楽研究会の皆さんによるデモンストレーションを観劇しました。参加者はなかなか見る事の機会の少ない能楽の観劇に参加学生は興味津々の様子でした。当日は、新型コロナウイルス感染対策でオンラインでも実施を行いました。普段はなかなか体験が出来ない能楽に聞き入っている様子が印象的でした。

その後は、能楽で使用する楽器の演奏を体験しました。能楽研究会の皆さんが参加学生1人1人について、体験のサポートにあたり、お互いに楽しそうに楽器を演奏していました。使用した楽器はアルコール消毒を行った後、使用する前は手指を消毒する等感染対策を徹底して行いました。

参加学生からは、「能楽の楽器に関する説明や演奏もとても面白かった」「もっと演奏したい」など、多くの感想をいただきました。なかには、プログラム終了後も能楽研究会の学生と話している参加学生もあり、本プログラムは学生同士の交流の場ともなりました。

プログラムの様子



プロに学ぶ スマホでできる！お手軽カメラ講座

日時 2020年11月30日(月)
15:30~17:10

場所 Web 会議ツール「Zoom」上

概要

1. 参加者数：25名
2. 講師：井上慎介氏(プロカメラマン)
3. 実施目的：

■学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践

■写真撮影における専門的な知識・技法を知ることによって、より良い感性や感覚を持った表現の受発信をできるようにする。

4. 内容：

2020年11月30日(月)に課外教養プログラム「プロに学ぶ スマホでできる！お手軽カメラ講座」をオンライン形式にて実施しました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、気兼ねなく外出できる機会が減り、以前のような形で友人らと交流をすることができず気が晴れない日々を過ごしている学生は多いです。このような状況下で、SNS、特に写真を活用したものは今まで以上にオンラインにおける重要なコミュニケーション手段となっています。

本プログラムでは、多くの学生が感性や感覚のみで撮影している現状に対して、人を惹き付けるより魅力的な写真の撮影方法を学ぶことで、オンラインにおける他者との交流をより一層充実させるためのきっかけとなることを目指しました。

講師にはカメラマン歴39年のプロフェッショナルである井上慎介氏をお招きしました。プログラムは大まかに分けると、スマートフォンでできる綺麗な写真の撮影方法・加工方法を講義形式でお聞きした後、それらの方法を参加者自身が実践し、最後に各自の作品とその工夫した点を小グループに分かれた参加者と講師間で共有するという3部構成で行いました。特にプログラム終盤における作品の共有時間は、参加者間で新たな写真撮影の切り口を発見する機会となると共に、オンラインながら参加者間で楽しく交流のできる貴重な時間となりました。またプログラム終了後も参加者から講師へ沢山の質問が挙がり、最後の最後まで充実した時間となりました。

本プログラムをきっかけとして、参加学生には学んだスキルを用いてオンラインにおける他者とのコミュニケーションをより充実したものにしていれば、嬉しい限りです。



【報告・KYOPRO スタッフ】岩本賢弥（経済学部経済学科4年）

プログラムの様子



【学生生活応援プロジェクト】

ジャズを楽しもう～With Corona, With Music～第3弾 ジャズ演奏におけるアドリブの基本を知る

日時 2020年12月1日(火) 18:00～20:00

場所 市ヶ谷キャンパス 富士見ゲート校舎 B2 階 オレンジホール

概要

1. 参加者数：15名(対面) 6名(ZOOM)
2. 協力：坂上学 氏(法政大学経営学部教授)
楠井五月 氏
3. 実施目的：
 - 学生サークルによる「ピアサポート」の実践
 - 聴く機会が少ないジャズについて、解説する事で音楽の教養を身につけてもらう。
4. 内容：

12月1日(火)、学生センター・学生生活応援プロジェクト

「ジャズを楽しもう～With Corona, With Music～」を実施しました。

本企画は、聴く機会が少ないジャズについて実際に聴いて頂き、また、ジャズについてレクチャーを受ける事で音楽に関する教養を身につけてもらう事と新型コロナウイルスの影響で停滞してしまったサークル活動を再び盛り上げる事を目的として実施しました。

プログラムでは、本学経営学部教授でジャズについて造詣の深い、坂上学先生と本学OBでプロのジャズミュージシャンとして活躍されている楠井五月氏にジャズのアドリブの基本について実演を交えながら解説して頂きました。講演の中では、「なぜジャズミュージシャンは、即興で演奏が出来るのか?」、「ジャズセッション(即興演奏)の考え方」等について解説して頂きました。当日は、ニューオレンチスイングオーケストラ、Ⅱ部モダンジャズ研究会やジャズ研究会といった本学でジャズを演奏しているサークルにも会場設営や実演のサポート等でご協力頂きました。

参加した学生の中には、ジャズ経験者の学生もいました。しかし、その学生は即興演奏を行った事が無く、どうやったら即興演奏が出来るのかについて知る事が出来て、非常に満足していました。

また、今回の企画は新型コロナウイルスによって家からなかなか外に出る事の出来ない学生も参加出来るようにZOOMを使ったオンラインも併用するハイブリッド形式で実施しました。

参加学生からは、「即興演奏の基本が分かった。サークル内で共有して、セッションを行えるようにしたい」、「大変勉強になった」など、多くの感想をいただきました。



プログラムの様子



【学生生活応援プロジェクト】 エクストリームミュージックを知ろう

日時 2020年12月4日(金) 15:00~18:30

場所 市ヶ谷キャンパス 外濠校舎B1階 多目的室1

概要

1. 参加者数：2名(対面)
2. 協力：音楽企画倶楽部
3. 実施目的：
 - 学生サークルによる「ピアサポート」の実践
 - 音楽の教養を深める
4. 内容：
12月4日(金)、学生センター・学生生活応援プロジェクト「エクストリームミュージックを知ろう」を実施しました。



本企画は、聴く機会が少ないエクストリームミュージックについて、実際に聴いて頂き、音楽に関する教養を身に付けてもらう事と新型コロナウイルスの影響で停滞してしまったサークル活動を再び盛り上げる事を目的として実施しました。

プログラムでは、法政大学でヘヴィメタルやハードロック等をメインに活動している音楽企画倶楽部にご協力頂きました。実際の演奏を踏まえて、知られざるエクストリームミュージックについて紹介をして頂きました。今回の企画では、新型コロナウイルスの影響で新歓活動が出来ていないサークルの支援という意味合いもあり、新入生へ向けて自団体の活動をアピール出来る良い機会にもなったのではないのでしょうか。

企画内では、様々なジャンルのコピーバンドが演奏を行い、エクストリームミュージックの幅広さを知る事が出来ました。また、新型コロナウイルスの影響で登校が出来ない、学生も見られるようにYouTubeによる配信を行いました。

参加学生からは、「今回の企画を受けて、音楽の幅広さを知る事が出来た」、「新入生がなかなか入らない中、このような企画が出来た事で新入生へのアピールになった」など、多くの感想をいただきました。

茶道体験教室

日時 2020年12月4日(金)
15:30~17:00

場所 EGG DOME 2階ロビー / Zoom

概要

1. 参加者数：6名
2. 講師：多摩茶道サークル
3. 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 日本古来より伝わる茶道の作法及び、その体験を通じた伝統芸能に関する教養教育の提供



4. 内容：

2020年12月4日(金)、課外教養プログラム「茶道体験教室」を実施しました。本プログラムでは、コロナ禍で自宅時間が増えた学生に対し、日本古来より伝わる茶道の作法及び、その体験を通じた伝統芸能に関する教養教育を提供することを目的に実施しました。

プログラムは、本学の登録団体である多摩茶道サークル協力のもと行われました。まずは、多摩茶道サークルにご準備いただいた、お菓子とお茶をいただきました。お菓子の食べ方、お茶の飲み方など、参加者からの様々な質問に多摩茶道サークルが丁寧に答えてくれました。続いて、多摩茶道サークル指導のもと、参加者も自分たちでお茶を点て、多摩茶道サークルが点てたお茶との味の違いを実感してもらいました。参加者のほとんどが初めての体験で、多摩茶道サークルのアドバイスのもと、丁寧に お茶を点てる様子が印象的でした。

参加者学生による感想として以下のようなものが挙がりました。

「穏やかな雰囲気です。居心地が良く、楽しかったためです。」

「お茶の作法や飲み方を置いてけぼりになることなく、一から丁寧に教えてくれたので嬉しかったです。楽しかったです！」

課外教養プログラムでは、今後も日本文化を始めとした様々な教養や体験を学ぶプログラムを実施していきます。

プログラムの様子



危険ドラッグの恐ろしさ ～薬物乱用防止セミナー～

日時 2020年12月11日(金) 15:30～16:40

場所 Web会議ツール「Zoom」上

概要

1. 参加者数：209名
2. 講師：鬼頭英明氏（法政大学スポーツ健康学部教授）
3. 実施目的：薬物の知識と心身に与える影響を正しく理解し、誘惑を断る意志確立と正しい規範育成を支援する。

4. 内容：

2020年12月11日に課外教養プログラム「危険ドラッグの恐ろしさ ～薬物乱用防止セミナー～」を実施しました。

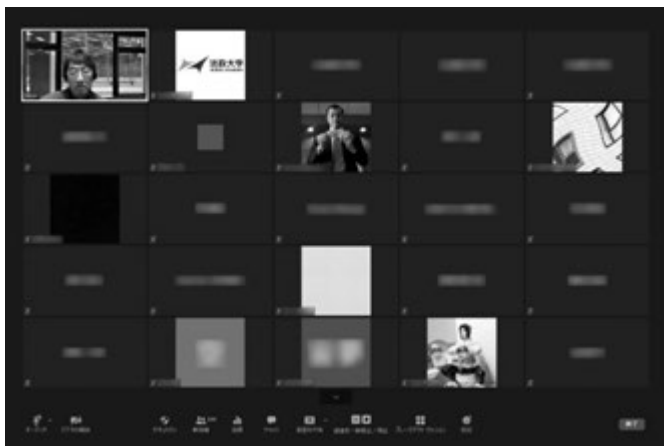
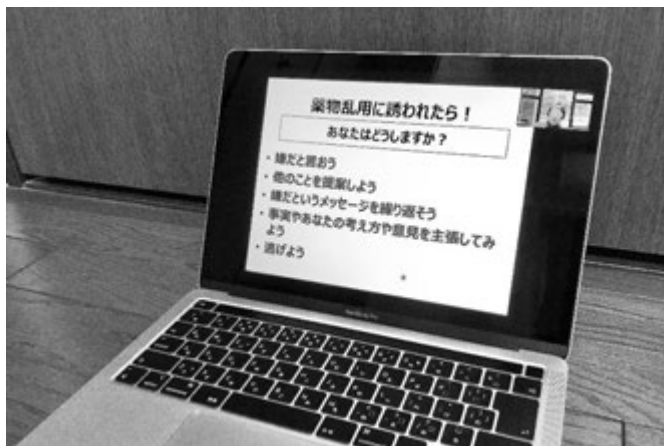
本プログラムは、2012年度より実施しているプログラムで、本年度は初のオンライン開催としました。保健教育学を専門とする本学スポーツ健康学部の鬼頭先生をお招きし、大学生の薬物への意識や実態、健康への影響、薬物依存のきっかけなど様々な角度から薬物の危険性をお話しいただきました。プログラム終了後は大学ホームページ上で期間限定のオンデマンド配信を行い、各学生団体の代表者は所属員への共有用として活用しました。

以下、学生アンケートです。（記された文面のまま記載）

- ・薬物は縁遠いものだと思いましたが、身近にあるものだと思いました。学生のような立場でも薬物や危険ドラッグは入手することができる環境は変わることは今後ないと思います。もしかしたら SNS など自由な世界が広がっていく今後は今よりも薬物は簡単に入手できるかもしれません。私たちはより一層自覚を持ち、正しい知識をもって、大人になっていかなければならないと思います。
- ・自分は薬物とは全く関係のない生活を送ってきていると思っていたが、法政大学でも昔問題になり、近くの大学でも薬物事件が起こっており、身近に危険が潜んでいるということを知る機会となったため、このセミナーに参加してよかったと思っている。
- ・薬物依存症状のほとんどは精神依存であることや、最初の一回が重大な問題であることなど、覚えておかないといけない貴重なお話がうかがえて良かったです。私の身の回りには薬物を乱用しているような人物、団体は全くおりませんが、自分の危険な飲酒含め注意喚起をしていきたいと思いました。
- ・薬物は依存性が高く、更に身近なところに潜んでいるということを肝に銘じなければならぬと感じた。これからはどのような形で自分の身に薬物が近づいてくるかに関して強い警戒心を持っていきたいと思う。またこのことを自分の学びの身で完結させず、周辺の人達にも共有していきたい。
- ・〇〇大学が薬物を使用していたことからとても身近なものに感じている。薬物がどれほど危険なのか、そしてどのような症状が起り社会に対してどのように影響を与えていくのかを知るいい機会となりました。自分は勧められたことはありませんが、これから何があるかわからないので薬物そしてお酒たばこも身近なものだという認識を持って生活していきたいと思いました。もし誘われたとしてもいやだと断れる勇気をもって絶対にかかわらない方法を探していきたいと思いました。



プログラムの様子



あなたの知らない空耳の世界

日時 2020年12月14日(月)
15:30~17:10

場所 Web会議ツール「Zoom」上

概要

1. 参加者数：11名
2. 講師：柏野牧夫氏（NTTコミュニケーション科学基礎研究所）

3. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
- 日常生活で生じる様々な現象を認知科学の視点から再考察する場を提供する。

4. 内容：

2020年12月14日(月)に、課外教養プログラム「あなたの知らない空耳の世界」を実施いたしました。本プログラムは空耳という事象を用いて、聴覚の錯覚である錯聴という概念とその情報処理プロセスについて理解を深めると同時に、日常生活で生じる様々な現象を認知科学の視点から再考察する場を提供することを目的としています。

講義では、様々な聴覚現象を体験した後、グループに分かれて反応や疑問を共有しました。

まずは音の欠けている部分を脳が勝手に補完して滑らかに聞かせる「連続聴効果」という現象について体験しました。この機能が身体で十分に働いていないと、日常の全ての音が入ってきて聴取がうまく機能しないそうです。多少の音が聞こえていなくても、文脈の前後が予測できていればより滑らかに聞くことができることから、私たちの意識に上る知覚内容は耳から入る情報だけでは不完全で、後付け的に再構成されたもっともらしい解釈であるといえます。

次に、同じ単語（今回は「バナナ」で検証）を一定の速度で連続して聞き続けると、違った単語に聞こえるという現象です。参加者からは「火山」、「花壇」、「ナナ」など様々な聞こえ方の違いが生じ、自分で聞いたことある言葉を思い込んでいるだけではないのか、次第に音の境目が曖昧になってきたなどの意見があがりました。

最後に、私たちが音を聞き取るのは聴覚のみに依存しているのではなく、視覚情報を組み合わせた多感覚で得る情報を頼りにしているという「マガーク効果」についてご教授いただきました。ここでは実際には「が」という音が流れているにもかかわらず、映像では「ま」「ば」「ぱ」行のような口を一度閉じる動きをしているためにその音に聞こえるというものでした。これは視覚の方が優先して情報処理されるというのではなく、視覚と聴覚の両方を同時に処理しているために生じていると考えられます。この現象は逆でもいえて、2つの対称的に動く四角い図形が交差している映像でも、それらが重なる瞬間に音を混ぜることでその図形が反発しているように見えました。

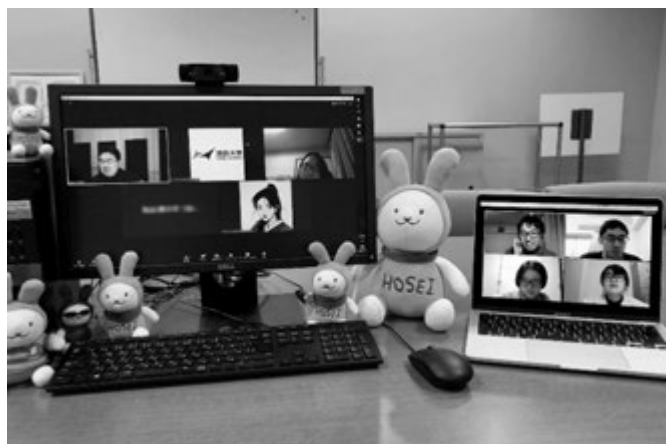
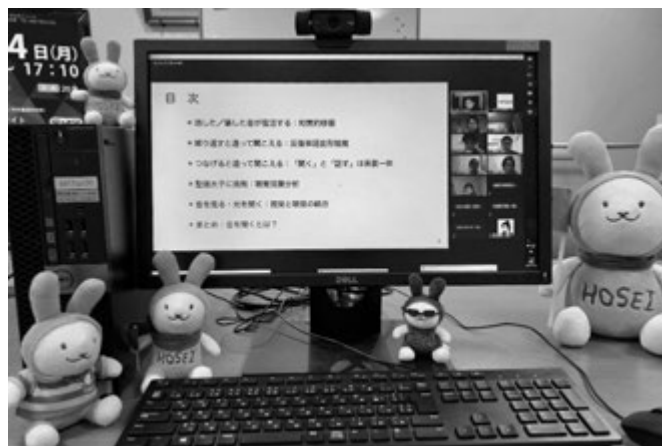
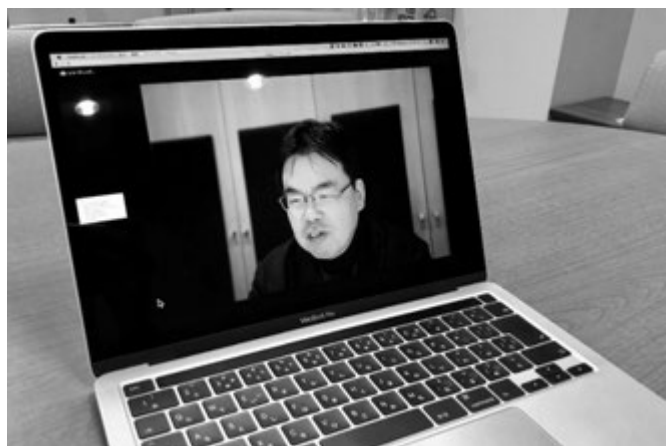
今回のプログラムで、錯覚が単なる幻覚や誤認ではなく、適応的な知覚が実現されていることや、耳に入る情報は聞こえた音が全てではなく脳によって前後の文脈からの予測で最もらしく解釈していることを学びました。自分がこれまで信じてきた聴覚の情報がいかに曖昧なものかを認識し、身の回りから取得する情報をもっと



懐疑的に受け取ってみようと思える充実した時間となりました。参加者からは「実際に音声を聞いて体感して解説をする形式で理解が深まった」、「講師の方との双方向の体験型で参加していて楽しかった」、「脳科学について知らなかったことが多く知れてよかった」などの感想があり大変貴重で充実した時間となったといえます。

【報告・KYOPRO スタッフ】皆川翔（社会学部メディア社会学科3年）

プログラムの様子



コロナ禍の今だからこそ学ぶ感染症 ～自分と周りの人を守るために～

日時 2020年12月17日(木)
15:30～17:10

場所 Web 会議ツール「Zoom」上

概要

1. 参加者数：11名
2. 講師：鬼頭英明氏（スポーツ健康学部教授）
3. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
- 新型コロナウイルスを含む感染症に対する基礎知識や私たちにできる対策について学ぶ。

4. 内容：

2020年12月17日(木)に課外教養プログラム「コロナ禍の今だからこそ学ぶ感染症 ～自分と周りの人を守るために～」をオンライン形式にて実施しました。現在新型コロナウイルスの影響が世界中に広がる中、人々の感染症に対する関心が今まで以上に高まっています。このような状況下で、インターネットやニュース等で感染症に関する情報を得る機会が多くなりましたが、専門的な知識のない我々には情報の選別が難しいのが現状です。そこで、本プログラムは感染症に対する正しい知識や対策を学ぶ機会を提供し生涯役に立つ知識を得ていただくことを目的とし開催しました。

講師には本学スポーツ健康学部教授で、応用健康科学、環境・衛生系薬学などを専門としている鬼頭英明氏をお招きしました。当日はグループワークの時間を設け、各自が行っている感染症対策や新型コロナウイルスまん延で新たに気づいたことを、グループ毎に共有しました。ここでは各々の感染症に対する対策意識の強さや考え方が感じられる機会となりました。その後の講義では、感染症の概要、学校における感染症への対応について、免疫システム、感染症対策や予防、感染症の歴史、新しい生活様式に基づいた人々の行動変容など、感染症の基礎から踏み込んだ話まで、様々な視点からお話していただきました。画像や図、グラフなどを用いたり、分類別に対策を解説して下さったりと、難しい内容も理解しやすく、楽しい講義となりました。また、先生が最後におっしゃった「今までの当たり前が当たり前ではなくなる。新しい働き方を柔軟に受け入れる。」という教訓は、この状況下で新たな学生生活を送る勇気の第一歩となり、参加者の心に響きました。

今回のプログラムが、新型コロナウイルスを改めて認識し、学んだ知識や対策、教訓などを活かして、各自が自分の行動に責任を持つ機会となれば幸いです。また、これらが新型コロナウイルスに限らず、感染症に関する教養として、生涯役に立つことを願っています。

【報告・KYOPRO スタッフ】徳廣怜（現代福祉学部福祉コミュニティ学科1年）



プログラムの様子



法政大学×サラエボ大学 学生オンライン交流会

日時 2020年12月19日(土)
16:00~17:20

場所 Zoom

概要

1. 参加者数：10名
2. 講師：牧野隆幸氏
(一般社団法人日本南東欧経済交流協会 事務局長)
3. 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - コロナ禍によって希薄となっている外国人学生との交流の機会を創出し、異文化理解を進める。



4. 内容：

2020年12月19日、法政大学課外教養プログラム『法政大学×サラエボ大学 オンライン学生交流会』を実施致しました。

一般社団法人日本南東欧経済交流協会と、ボスニアヘルツェゴビナのサラエボ大学、法政大学の共同のもと実現しました。牧野氏には昨年度実施した「パスポートのいらないブルガリア」でも講師を務めて頂いています。本企画は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、学生間の学びやコミュニケーションが失われていること、東欧地域との交流会は未だ実施されていないという課題から学生スタッフがから企画を作り上げました。

プログラム前半ではお互いの国で使用する言語で相手の名前の意味を紹介し合いました。漢字・キリル文字を紙等に書きながら紹介を行い、そのデータは手元に届くようにしました。データは、両国の学生の友情の証として大切に頂けたらと思います。

後半では両国のお菓子を紹介し合うプログラムやお互いの国についてざっくばらんに質問や紹介をする時間を設けました。

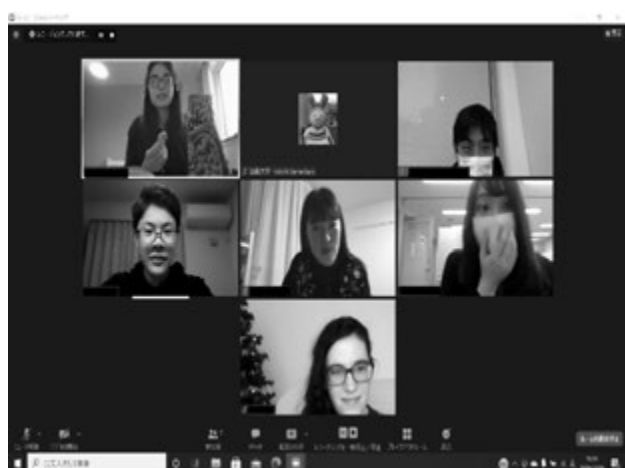
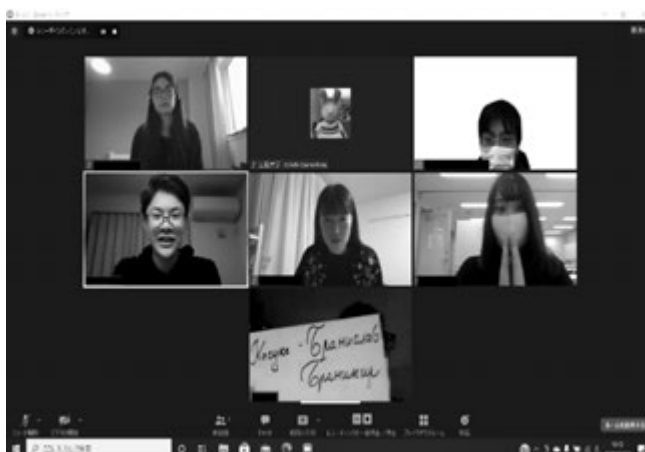
本企画に参加された学生さんはサラエボ大学で日本語を学んでおり、日本語での意思疎通がスムーズでした。法政大学の学生はこの事に驚いていたようです。また、何故世界共通語ではない日本語を学ぶのかという質問に対して、「学ぶことの利点ではなく、日本語の響きが美しいからだ。」と答える学生さんもいらっしゃいました。

普段日本で生活し、何気なく日本語を使う私達に日本の素晴らしさを再認識させる良い機会でした。そして、僅か1時間程の交流でしたが、普段日本では着目されにくい東欧について考える第1歩だと思いまし

た。いつか渡航が自由になる時が来たら次は直接お逢いし、より絆を深めていきたいです。ご縁を大切に、苦しい時期でも国境を越えて学び、互いに尊重し合えるようにこれからの時代を生きていきましょう。

【報告・KYOPRO スタッフ】横溝満里奈（経営学部経営戦略学科4年）

プログラムの様子



伝わるデザイン術

～すべての表現を見やすく美しく～

日時 2021年2月1日(月)
15:30～17:10

場所 Web 会議ツール「Zoom」上

概要

1. 参加者数：38名
2. 講師：片山なつ氏
(千葉大学大学院 理学研究院)

3. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
- 日頃感覚的に何となく制作しがちな資料やポスターの「読みやすさ」「見やすさ」「わかりやすさ」を最大限高めるための「伝わるデザイン術」を学ぶ

4. 内容：

2021年2月1日(月)に課外教養プログラム「伝わるデザイン術 ～すべての表現を見やすく美しく～」をZoomにて実施しました。大学生になると、様々な資料を作成する機会が多くなります。一方で、多くの学生は今まで情報を分かりやすくまとめて資料作成する手法を学んだことがなく、感覚的に作成する学生が多いです。ゼミでのレジュメや研究発表ポスター、サークルでのチラシなど、いずれも情報を他者へ伝達する行為であるため、より「効果的に情報を整理すること」が重要だと考えます。本プログラムは情報をスムーズに他者に伝えるため、より「見やすく、読みやすく、伝わりやすい」資料作成に役に立つデザインの基本知識を身につけることを目的としたものです。

講師は千葉大学大学院理学研究院の片山なつ様をお招きしました。片山様は、「デザインを教養に。」というテーマで、2010年にウェブサイト「伝わるデザイン | 研究発表のためのユニバーサルデザイン」を立ち上げ、これまで大学や図書館、官公庁、企業などを対象に数多くの講演を行ってきました。

プログラムは、まず片山先生による講演を行いました。資料作成に必要な情報デザインの基本ルールやテクニックなどを四項目に分けて紹介しました。中でも受け手の多様性に配慮し、視覚のバリアフリー化をするための色覚ルールの話は特に印象に残り、非常に勉強になりました。次に、各グループに分かれ、講義で学習したデザインのルールを活かし、事前に学生スタッフで用意したスライド資料をより魅力的な資料に修正するグループワークを行いました。グループで一つの資料を修正する形を取ったため、全員で学んだデザインのルールについて復習しながらグループワークを進めることができました。議論が非常に活発し、学生同士で学んだ知識を共有する素敵な空間になりました。プログラム終了後には、時間が限られている中、学んだデザインルールをその場で参加者と協力し合いながら実践するこのグループワークに多くの好評を頂きました。

本プログラムで学んだデザインのルールと情報伝達の基本知識は、オンラインでの授業やサークル活動などが増え、視覚的なメディアを活用することが多くなった今日、とても有益なものとなりました。また、学生時代はもちろん、将来社会人になっても役に立つ内容でした。参加者の皆さんにはこれから様々な資料を作成する際に、より伝わりやすく魅力的なもののできるヒントになることを期待しています。



プログラムの様子



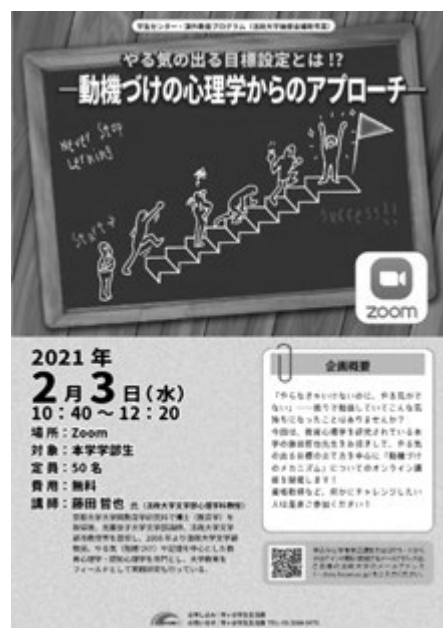
やる気の出る目標設定とは！？ — 動機付けの心理学からのアプローチ —

日時 2021年2月3日(水)
10:40~12:20

場所 Zoom

概要

1. 参加者数：27名
2. 講師：藤田哲也 氏（法政大学文学部 教授）
3. 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 学生が生活に使える心理学を学ぶことで、自身の心をうまくコントロール出来るようにする。



4. 内容：

2月3日(水)、Zoomを用いたオンライン形式で課外教養プログラム「やる気の出る目標設定とは！？— 動機付けの心理学からのアプローチ」を実施しました。

このプログラムは、本学文学部心理学科の教授である藤田哲也氏を講師に迎え、やる気と成功可能性の相関関係、また目標を達成するために有効な方法である「小ステップで目標を捉えること」について学ぶことで、自分のやる気をコントロールし、新しいことにチャレンジしやすくするという事を目的とした企画でした。

初めにブレイクアウトルームで5人程度のグループに分かれて、自分が今チャレンジしようとしている事をシェアしました。その後、藤田氏による、やる気のコントロールについての講義が行われました。心理学の学術的な説明と、自己を振り返るグループワークを繰り返すことで、よりこの心理学の概念を身近に感じ、自分のものとして消化することが出来たのではないのでしょうか。

目標設定の心理学的な方法論は難解なものかと思われがちですが、藤田氏ご自身の経験を踏まえて説明頂いたので、参加者は分かりやすく講義を受講する事が出来ました。

講義終了後にはオンライン上ではありますが、モチベーションについて悩みのある参加者の質問にも丁寧に対応されていたのが印象的です。

また、多くのグループワークを行った事で参加者間の交流も活発に行われていました。コロナ禍の影響で学生同士の交流がなかなか出来ない状況で、学生同士で交流が出来る貴重な機会となりました。

大学生は、自分の将来の夢のために様々なことにチャレンジすることが求められます。今回のプログラムを通して、心理学研究の教授が直伝する適切な目標の決め方、そしてその課題の進め方を多くの人が学ぶことが出来たのではないのでしょうか。

今後、日常のいろんな場面で新しいことにチャレンジする必要があると思いますが、そのときは的確にそのチャレンジの難易度を自分で判断し、あまりマイナス思考になりすぎずに、小ステップでチャレンジに対峙しようと思いました。

【報告・KYOPRO スタッフ】 渡辺麻由（国際文化学部・国際文化学科2年）

プログラムの様子



流行りの曲から身に付ける理系的思考

日時 2021年3月15日(月)
15:30~17:00

場所 Zoom

概要

1. 参加者数：23名
2. 講師：谷口 由貴 氏（博報堂ビジネスコンテンツラボ）
3. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
- 先人たちの知恵や工夫にも優れたものが存在することを実感し、日々の生活で活用してもらう。

4. 内容：

2021年3月15日(月)に課外教養プログラム「流行りの曲から身に付ける理系的思考」を実施しました。

本プログラムは、音楽に興味を持つ学生を対象に、流行の音楽がヒットした要因を分析することを通してマーケティングについて知ることを目的に実施しました。

プログラムはZoomを用いたオンライン形式で行いました。プログラム前半には講師の方から音楽ヒットの傾向に関する講義を受け、その内容をもとに後半ではいくつかのグループに分かれ学生間で音楽ニーズについて考えるグループワークをしました。

本プログラム参加者からいただいた感想を一部掲載いたします。

「楽曲のヒットという曖昧に思える部分について、数値や統計という具体的な面から分析していたところがとても面白く感じました。」

「普段の自分の音楽範囲ではカバーできない部分に初めて触れられて、新たな視点を得られた。」

「興味を持っている分野(音楽)についてより深く知ることができました。私は文系なので理系の方たちの思考のプロセスにも触れることができ面白かったです。」

プログラムを通して私たちにとって身近な音楽のヒット要因を学び、また実体験から新たな音楽サービスの需要について考えることができました。街中やテレビなどで音楽を耳にする際、心と本プログラムを思い出してもらえたら嬉しいです。



【報告・KYOPRO スタッフ】長岡隼巳（理工学部応用情報工学科2年）

プログラムの様子

2020年の音楽ヒット傾向

プレイリスト＝新規リスナーとの接点

音楽配信のプレイリストは重要で、そのプレイリストに入ることで、そのアーティストの楽曲を多くの人にも聴かせることができる。

King Gnu ファン	ロック系 アーティスト	JPOP 好き	ヒット曲 聞きたい	仕事し ながら	ヒット曲 聞きたい	カラオケ 好き
お花見	流行 曲が好き	ROCK 好き	音楽 情報系	はやめの JPOP	バーディ を盛り上 げるJGM	疲れた時 に聴く
渋谷系	TikTok アーティスト	フェイク 好き	Apple Music アーティスト	フェイク 好き	Apple Music アーティスト	邦楽 好き

④ 参加したくなる余地

音楽配信が流入した楽曲を“使う”前者、
TikTokやYouTubeで好きなインフルエンサーがカバーしていたことを
きっかけに知ったアーティストをストーリーやリミックスで日常聴き。

ブレイクした要因はこの5つ？

- ① 前奏の短さ
- ② ストーリー性
- ③ 中毒性
- ④ 参加したくなる余地
- ⑤ 共感をつくる余白

アーティストの楽曲がブレイクする要因

楽曲がブレイクする要因は、楽曲の質、アーティストの活動、SNSでの活動、リスナーの反応、音楽配信のプラットフォームのアルゴリズムなど、様々な要因が絡み合っている。

楽曲の質：楽曲のクオリティ、歌詞、メロディ、リズム、サウンドデザインなど。

アーティストの活動：ライブ活動、SNSでの発信、ファンとのコミュニケーションなど。

SNSでの活動：TikTok、YouTube、Instagram、Twitterなどでの活動。

リスナーの反応：コメント、シェア、リミックス、カバーなど。

音楽配信のプラットフォームのアルゴリズム：Apple Music、Spotify、Amazon Musicなど。

伝える伝わるプレゼンテーション ～実践で身に付ける魅力的なプレゼン術～

日時 2021年3月23日(火)
15:00～16:40

場所 Web会議ツール「Zoom」上

概要

1. 参加者数：35名
2. 講師：西原猛氏
(一般社団法人日本プレゼンテーション教育協会代表理事)

3. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
- 聞き手に興味を持ってもらえる魅力的なプレゼンテーションを実際に体験し、今後のプレゼンテーションをより良いものとするきっかけにする。

4. 内容：

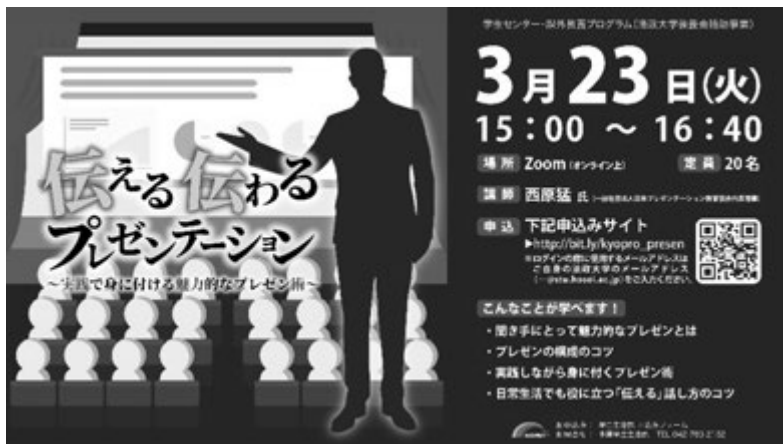
2021年3月23日(火)に課外教養プログラム「伝える伝わるプレゼンテーション ～実践で学ぶ魅力的なプレゼン術～」をZoomにてオンライン開催いたしました。本プログラムは、大学でも社会に出ても必要になるプレゼンテーション術を、その基本的なポイントを教わりながら、実際に自分でプレゼンを構成し実演もするという実践を通して身に付けよう、という趣旨のもと開催されました。講師には、一般社団法人日本プレゼンテーション教育協会代表理事の西原猛氏をお招きしました。

プログラムではまず、講師の「プレゼンとは本当は『伝える』ことではない！」という言葉から始まり、以降、学生が考えるプレゼンの概念をひっくり返すような話が続々と飛び出しました。今回の講義で講師が最も主張していたのは、「プレゼンとは、相手を動かし、こちらの望む行動を取ってもらうことだ」ということです。自分の主張を話すだけでなく、相手にメリットがあり、こちらの望む行動を相手にとってもらえるような話をするということは、授業で行う研究発表などではあまり意識しないことなので、これを知れただけでもこのプログラムの意義は大きいと思います。そして、講師からどのように話を組み立てれば相手を動かせるのかを教わりながら、参加者は一人一人自分がプレゼンしたいテーマで実際のプレゼン台本を作っていました。また、緩急や強調の付け方などプレゼンでの話し方のポイントや、プレゼンの練習方法も教わりました。

その後、三人一組のグループにわかれ、一人ずつ講義中に作った台本を元に一分半ほどのプレゼンを行いました。参加者のプレゼンは「おすすめのスマホアプリを活用してほしい」「〇〇という観光名所に大学生が訪れてほしい」など、多種多様なテーマが出そろい、それぞれ相手に自分の望む行動を取ってもらえるよう工夫しながらプレゼンをしていました。参加者からは「どういった点に気を付けてプレゼンをすればいいのか具体的に意識できるようになった」「実践練習が非常に役に立った」などご好評の声をたくさんいただきました。

今回のプログラムは、プレゼンの実践もするという事でかなりアウトプットを重視した密度の濃いものとなりましたが、多くの方にとって有意義な学びになったようで幸いです。このプログラムで得たプレゼンの知識や実践での感覚が今後のプレゼンの自信につながってくれば嬉しく思います。

【報告・KYOPRO スタッフ】佐藤珠実(社会学部社会学科1年)



プログラムの様子

